科目名	国文学概論Ⅰ		担当教員	木戸浦　豊和	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1JLI101
期待される学修成果	基礎教養　教科教育				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	（１）テーマ：物語の技法を学ぶ （２）到達目標： ①小説の言葉・表現・イメージに着目し、作品を精読できる。 ②小説の《技法》を分析し、独創的な文学表現を読み解くことができる。 ③根拠や理由を明確にして、自分の解釈をまとめることができる。				
授業の概要	小説や物語を読むときには、《何が書かれているか？》（＝内容・主題）だけではなく、《どのように書かれているか？》（＝技法・表現）にも注意を払う必要がある。文学作品の技法や表現の特徴を明らかにする学問を広義に《詩学》と言う。 この授業では、小・中学校や高等学校の教科書に掲載されている作品を精読し、小説の技法や表現の分析方法の基礎を学ぶ。				

授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	安東みきえ「星の花が降るころに」①――物語文・語り手
第3回	安東みきえ「星の花が降るころに」②――物語の構成・物語の始まりと終わり
第4回	安東みきえ「星の花が降るころに」③――ストーリーとプロット
第5回	安東みきえ「星の花が降るころに」④――レトリック・タイトル
第6回	新美南吉「手袋を買いに」――レトリック・異化
第7回	新美南吉「ごん狐」――語り手・枠物語・焦点化
第8回	宮沢賢治「注文の多い料理店」「雁の童子」①――枠物語
第9回	宮沢賢治「注文の多い料理店」「雁の童子」②――物語の類型
第10回	夏目漱石「夢十夜」①――語り手・物語の始まりと終わり
第11回	夏目漱石「夢十夜」②――語りの現在と物語の現在
第12回	夏目漱石「夢十夜」③――レトリック・曖昧性
第13回	芥川龍之介「羅生門」①――語り手・焦点化・メタフィクション
第14回	芥川龍之介「羅生門」②――レトリック
第15回	芥川龍之介「羅生門」③――引用・間テクスト性

事前学修	2時間	作品を必ず読み、疑問点等をまとめる。
事後学修	2時間	作品を再読し、自分の意見や分析・解釈を整理する。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題等に関し、特に優れた意見や分析・解釈を授業中に紹介する。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	70%	定期試験の成績に基づく。
上記以外の試験・平常点評価	30%	課題の提出状況・内容に基づく。
補足事項	（１）文学の授業でもっとも大切なことは、自分で作品を読み、自分で作品を分析し、解釈することである。必ず自分で作品を読み、自分の言葉で事前課題やレポート・発表資料をまとめること。	

	（2）事前課題やレポート・発表資料に関しネット上の文章などを「コピペ」していたことが判明した場合には、失格とする。 （3）受講生の興味・関心および理解度に応じて、作品を変更する場合がある。

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料を配布する。	—	—	—	—
参考資料	授業中に紹介する。			

科目名	国文学概論Ⅱ		担当教員	木戸浦　豊和	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1JLI102
期待される学修成果	基礎教養　教科教育				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	（１）テーマ：小説の技法を学ぶ （２）到達目標： ①小説の言葉・表現・イメージに着目し、作品を精読できる。 ②小説の《技法》を分析し、独創的な文学表現を読み解くことができる。 ③根拠や理由を明確にして、自分の解釈をまとめることができる。				
授業の概要	小説や物語を読むときには、《何が書かれているか？》（＝内容・主題）だけではなく、《どのように書かれているか？》（＝技法・表現）にも注意を払う必要がある。文学作品の技法や表現の特徴を明らかにする学問を広義に《詩学》と言う。 この授業では、前期の国文学概論Ⅰに引き続き、中学校や高等学校の教科書に掲載されている作品などを精読し、小説の技法や表現の分析方法の基礎を学ぶ。				

授業計画	
第1回	ガイダンス
第2回	中島敦「名人伝」①――語り手・メタフィクション
第3回	中島敦「名人伝」②――空白・期待の地平
第4回	中島敦「名人伝」③――引用・間テクスト性
第5回	村上春樹「鏡」①――枠物語・物語の形式
第6回	村上春樹「鏡」②――物語の類型
第7回	梶井基次郎「Ｋの昇天」①――物語の形式
第8回	梶井基次郎「Ｋの昇天」②――物語の類型
第9回	森鷗外「高瀬舟」①――語り手
第10回	森鷗外「高瀬舟」②――物語の構成・物語の始まりと終わり
第11回	森鷗外「高瀬舟」③――空白
第12回	森鷗外「高瀬舟」④――引用・間テクスト性
第13回	村上春樹「午後の最後の芝生」①――語り手・枠物語
第14回	村上春樹「午後の最後の芝生」②――語りの現在と物語の現在
第15回	村上春樹「午後の最後の芝生」③――空白

事前学修	2時間	作品を必ず読み、疑問点等をまとめる。
事後学修	2時間	作品を再読し、自分の意見や分析・解釈を整理する。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題等に関し、特に優れた意見や分析・解釈を授業中に紹介する。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
定期試験	70%	定期試験の成績に基づく。
上記以外の試験・平常点評価	30%	課題の提出状況・内容に基づく。
補足事項	（１）文学の授業でもっとも大切なことは、自分で作品を読み、自分で作品を分析し、解釈することである。必ず自分で作品を読み、自分の言葉で事前課題やレポート・発表資料をまとめること。	

	（2）事前課題やレポート・発表資料に関しネット上の文章などを「コピペ」していたことが判明した場合には、失格とする。 （3）受講生の興味・関心および理解度に応じて、作品を変更する場合がある。

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
資料を配布する。	—	—	—	—
参考資料	授業中に紹介する。			